



令和元年12月、おざわ良央県議は第5回目になる本会議一般質問を行い、小田原市や県西地域の懸案となっている諸課題や、昨年的大型台風被害等について県当局の対応や今後について質問しました。概要をご報告します。

県西の諸課題に挑む!

神奈川県議会議員 **おざわ良央**

よしな



おざわ良央の
ライフワーク!
進み始めた
“伊豆湘南道路”

1 県西地域の更なる活性化 (質問省略)

知事 交流人口や関係人口の更なる拡大等、定住に繋がる様々な取組みを展開する。地域資源を有機的に結び、また新たな企業誘致策「セレクト神奈川 NEXT」等を活用し、県内再投資や企業誘致を進めて持続可能な活力ある県西の実現を目指す。

2 県西地域の鳥獣被害対策 (質問省略)

知事 県西地域では、サル、シカ、イノシシの被害地域も年々拡大。それぞれの管理計画に基づき、特性に応じた効果的な取組みにより、鳥獣被害対策を着実に推進する。

5 神奈川と静岡を結ぶ道路ネットワーク強化について

おざわ 県西沿岸部の道路網は非常に脆弱。国道1号も降雪交通規制等ある。両地域の県民生活や防災、観光等を支える新しい高規格道路“伊豆湘南道路”が必要。より積極的な対応を望む。

県土整備局長 恒常的な交通渋滞と一昨年の台風12号による複数車両の破損事故等あり、迂回道路もない国道135号(真鶴道路)の脆弱性が浮き彫りになった。県は静岡県や沿線市町と国へ、道路ネットワーク強化への支援を要請。昨年7月に「かながわブランドデザイン第3期実施計画」で「両県をまたぐ道路計画の促進」を位置づけた。今後は沿岸部の国道135号と計画新道路との機能分担やルート等を明確にし、国の支援を求め、新道路計画を推進する。

4 小田原市内の河川・海岸の減災対策 (質問省略)

県土整備局長 河川については、山王川と森戸川の護岸破損等は応急復旧済み。本復旧に向け速やかに工事着手する。酒匂川など4河川の堆積土砂の掘削も積極的に取り組んでいる。海岸については、国府津、前川地区で高波、越波による被害対策として、有識者、国、市と被害箇所現地調査。効果的な工法決定後、対策を講じる。

・未病について
・台風等での被災漁業者支援
の2問は省略

3 台風19号による観光客減少等への箱根や周辺市町地域への支援について (質問省略)

知事 箱根は大きな被害。県は旅行商品や宿泊料金の割引、被災中小企業への金融支援や、施設、機器等の復旧・整備補助金交付等、地元と連携した支援を展開。また国道135号や1号線の復旧等も実施。今後も地元、国と一体となり、箱根や周辺市町の観光を盛り上げていく。

「新型コロナ」に立ち向かう!!

「新型コロナウイルス感染症」については、特に神奈川県は、横浜港へのクルーズ船寄港もあり、**2月下旬には、危機管理対策本部を立ち上げ、「コロナ対策サイト」も開設(神奈川県ホームページをご覧ください)、県民への情報公開や情報提供体制を整え、また県独自対策に36億余円の補正予算を緊急措置いたしました。県議会も、特別委員会を設置、県民等への多面的な対応を進めています。地域社会や私達みんなが「新型コロナ」に立ち向かいましょう。**